

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																				
麻生情報ビジネス 専門学校北九州校		平成8年3月4日		富田 博之		〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目11番33号 (電話) 093-533-1133																				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																				
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999																				
分野	認定課程名		認定学科名			専任	高度専任																			
文化・教養	文化教養専門課程		CGクリエイター科			平成28年文部科学省 告示第18号	-																			
学科の目的	高度な目標を見据え、クリエイティブ業界の業務に必要な知識と技術を習得し、将来業界人としてプロ意識を持ち、活躍できるマインドを持つ人材を育成する。																									
認定年月日	平成29年2月28日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																		
	3年 昼間	2,487時間		373時間	2,114時間	0時間	0時間	0時間																		
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																
60人		24人		0人		3人		10人		13人																
学期制度	■前期: 4月1日から9月1日まで ■後期: 9月2日から3月31日まで				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期毎5段階にて評価 担当教員が定期試験、出席等の状況をもとに評価																				
長期休み	■夏 季: 8月1日～9月1日 ■冬 季: 12月21日～1月5日 ■春 季: 3月1日～3月31日				卒業・進級 条件	ア. 指定科目すべての修得 イ. 学年の出席率90%以上 ウ. 卒業基準検定の取得 エ. 学生としてふさわしい生活態度																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任および学科教員との個別ガイダンスの実施。 学科責任者との面談、三者面談の実施。				課外活動	■課外活動の種類 ボランティア等  ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																				
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) デザイン業界、クリエイティブ業界				主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>色彩検定 3級</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>Photoshop 検定STD</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>Illustrator 検定STD</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	色彩検定 3級	③	6人	4人	Photoshop 検定STD	③	6人	5人	Illustrator 検定STD	③	6人	6人
	資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
	色彩検定 3級	③	6人	4人																						
	Photoshop 検定STD	③	6人	5人																						
Illustrator 検定STD	③	6人	6人																							
■就職指導内容 担任、就職担当職員により、キャリアデザイン、履歴書の作成、面接試験等についての指導、相談を行っている。																										
■卒業生数 8 人																										
■就職希望者数 8 人																										
■就職者数 8 人																										
■就職率 : 100 %																										
■卒業者に占める就職者の割合 : 100 %																										
■その他																										
(平成 30 年度卒業生に関する 令和元年5月1日 時点の情報)																										
中途退学 の現状	■中途退学者 0 名 ■中退率 0 % 平成30年5月1日時点において、在学者23名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者23名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 中途退学者なし				■中退防止・中退者支援のための取組 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。 学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。																					
	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本大震災により被災した進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																									
当該学科の ホームページ URL	http://www.asojuku.ac.jp/abkc/subject/cg/																									

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生の主な就職先であるクリエイティブ業界、デザイン業界においては、顧客が求めるデザインが出来る人材、企画、提案も含めた総合力を持った人材が求められている。そのような人材を育てる教育課程を編成するには、企業等との連携が不可欠である。そのため、本校では、専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。

また、業界で仕事をされている兼任教員や、学生の就職先企業の方との意見交換を随時行う。さらに、インターンシップ先に評価表を書いていただいたり、就職先企業に対しお客様アンケートを実施したりすることにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのことにより得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした教育課程編成委員会を置く。委員会では、以下に示す事項を審議する。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

教育課程編成委員会の意見は、主任等が主宰する各学科または各系のカリキュラム会議において検討し、カリキュラムの改善(授業科目の新設・改編や、授業方法の改善・工夫)などにできる限り反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
中島 亮	産業経済局 企業支援・産学連携部 企業立地支援課 情報・通信産業担当係長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(任期1年)	①
宮原 寿光	(株)RAID 代表取締役社長	平成30年10月1日～ 令和元年9月30日(任期1年)	③
上田 浩二	ガレージインク 代表	平成30年10月1日～ 令和元年9月30日(任期1年)	③
白石 和行	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部リーダー	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(任期1年)	
堀切 多恵	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教員	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(任期1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期) 年2回 6月・11月

(開催日時(実績))

第1回 平成30年6月22日(金)全体会17:00-17:20 分科会18:10-18:40

第2回 平成30年11月9日(金)全体会17:30-17:40 分科会19:30-20:00

(開催日時 予定)

第1回 令和元年6月19日(水)全体会17:40-18:00 分科会19:40-20:10

第2回 令和元年11月6日(水)全体会17:30-17:40 分科会19:20-19:50

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

Web関連業界では、人材不足の状況が続いている。まず学生のWeb業界への就業意欲を高める必要があり、授業・課題内容へ取り入れる必要があるとの意見があった。この意見を受けて、Web業界での就職を見据えたカリキュラムを更に検討していくこととした。個々の学生のレベルに合わせた内容、業界に就職したOB/OG訪問などを通じて、学生へWeb業界の現状を伝える機会を設け、学生の動機付けを行うこととした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等からのヒアリング及び卒業生を採用していただいている企業に対して実施している「お客様アンケート」の情報に基づき、現在デザイン業界で求められている人材像、技術を修得することが出来る授業を、企業との連携により実現する。また、企業の方から直接指導していただくことにより、企業が求めるレベルを知ることが出来、そのレベルと現在の実力とのギャップから、今後各自が努力すべき方向性と量を認識させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

デザイン業界で求められている人材像、技術を知ることとを目的とした科目となるよう、企業から派遣される講師と本校教員とが授業開始前に、授業内容や授業方法、評価方法などについて打ち合わせを実施し決定する。また、評価基準についても学生が現在の自己のレベルを把握できる内容となるよう企業講師と協議して設定する。

企業講師には、実際の授業にも適宜入っていただき、学生に業界の求めるレベルを認識させるためにアドバイスを行っていただく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
進級制作Ⅰ	1年次に習得したデザイン制作の基礎技術を活かし、一つのまとまった制作物として形にして完成させる。企業の方から個々にアドバイスをいただき、実践的かつ専門的な能力を身に付けるための端緒を理解させる。	ナカムラタツヤデザインルーム
進級制作Ⅱ	2年次に習得したデザイン制作の応用技術を活かし、主に企画力に重点を置いて制作物を完成させる。企業の方から個々にアドバイスをいただき、より実践的で専門的に完成度の高い作品を制作する。	ナカムラタツヤデザインルーム
卒業制作A	3年までに学んだことの集大成とした作品制作を行う。2年次同様、企画の内容に重点を置くが、企業の方からアドバイスをいただき、より社会的なテーマや問題を取り上げ制作する。卒業制作Aでは企画書完成・制作までを行う。	ナカムラタツヤデザインルーム
卒業制作B	3年までに学んだことの集大成とした作品制作を行う。2年次同様、企画の内容に重点を置くが、企業の方からアドバイスをいただき、より社会的なテーマや問題を取り上げ制作する。卒業制作Bでは制作からプレゼンまでを行う。	ナカムラタツヤデザインルーム

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教職員に対して、現在就いている職務又は将来就くことが予想される、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

・研修名：コンテンツ資金調達の多様化を知り、備え、使う ～北九州から世界に羽ばたくために～

連携企業等：北九州市民文化スポーツ局文化企画課

期間：平成31年3月20日

対象：教員2名

内容：北九州をモデルとしたアニメ『メガウデ』のプロジェクト内容を絡め、最新の資金調達の流れを紹介、コンテンツ業者が留意すべき事項について

②指導力の修得・向上のための研修等

・研修名:「コーチング実践」  
連携企業等:組織デザイン・ラボ  
期間:平成31年8月30日  
対象:教員1名  
内容:学生のやる気を引き出し、自発的な行動を起こさせる、学生支援スキルを高める。  
学校における学生・保護者との対応事例を使い、コーチング手法を学ぶ。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

・研修名:2019年知的財産権制度説明会」～学ぼう！発明・デザイン・トレードマークの活かし方！～  
連携企業等:特許庁 産業財産権専門官  
期間:令和元年9月6日  
対象:教員1名  
内容:知的財産権の基礎知識や実際の企業の活用事例・トラブル事例、知的財産権活用の効果など、ビジネスに役立つ情報の紹介。

②指導力の修得・向上のための研修等

・研修名:「コーチング実践」  
連携企業等:組織デザイン・ラボ  
期間:令和元年8月7日  
対象:教員1名  
内容:学生のやる気と能力を引き出すコーチングの基本スキル(傾聴・質問・承認)について、  
ロールプレイングを通して学ぶ。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりを行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育人人材像、他
(2)学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5)学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11)国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員の方より地域と連携した活動を継続していただきたいとのご意見をいただいている。学校全体として北九州市産業経済局企業立地支援課と常に連携し協議を行い、高校などに出向いての公開講座も実施している。CGデザイン科・CGクリエイター科においては、行政と連携した北九州高校生イラストコンテストを継続して実施している。CGクリエイター科の学生作品が北九州商工会議所主催の「わっしょい百万夏祭り」のポスターとして採用されるなど社会的活動、地域貢献活動につながった。

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
瀧口 博俊	福岡県立小倉商業高等学校 校長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日(2年)	高等学校関係者
清水 佳代子	システムエンジニア科2年生の保護者	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	保護者
西村 祥子	システムエンジニア科平成21年度卒業生	平成29年10月1日～ 令和元年9月30日(2年)	卒業生
安部 久美子	地域住民代表	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	地域住民
小峰 正仁	(株)メンバーズ 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業関係者
森田 良一	バリエントソフト(株) 代表取締役	平成29年10月1日～ 令和元年9月30日(2年)	企業関係者
河上 和弘	(株)ジーン 第一開発事業部 事業部長	平成29年10月1日～ 令和元年9月30日(2年)	企業関係者
宮原 寿光	(株)RAID 代表取締役社長	平成29年10月1日～ 令和元年9月30日(2年)	企業関係者
上田 浩二	ガレージインク 代表	平成30年10月1日～ 令和2年9月30日(2年)	企業関係者
伊藤 洋平	(株)安川ビジネススタッフ 営業企画本部 営業企画課長	平成30年10月1日～ 令和2年9月30日(2年)	企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

**ホームページ** ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abkc/2019/hyoka.pdf>

公表時期: 令和元年7月22日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

## (1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

## (2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方、5つの特徴
(2) 各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格・検定、就職情報
(3) 教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭・部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート、留学生学習・生活サポート、留学生就職サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育、海外での大学教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

## (3) 情報提供方法

**ホームページ** ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/abkc/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 CGクリエイター科) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			CG概論 I	CGデザイン制作のための基本的な知識の習得 CGクリエイター検定の受験対策	1 後	45		○			○		○		
○			色彩演習 I - A/B	色彩についての基礎知識を演習を通じて学習する。 色彩検定2級の受験対策。	1 前後	60			○			○		○	
○			色彩演習 II	色彩についての基礎知識を演習を通じて学習する。 色彩検定2級の受験対策。	2 前	45			○			○		○	
○			デザイン概論 I	デザインについての基本知識について学習する。	1 前	45		○				○		○	
○			デザイン概論 II	デザイン概論 I を基本とし、デザインについての知識、歴史などについて学習する。	2 後	20		○				○		○	
○			デッサン	石膏像、静物などを鉛筆デッサンし、正確な描写力と観察力を養う。	1 前後	90			○			○			○
○			POP演習 I	レタリングを通じたタイポグラフィからPOP 広告の知識と技術の基礎を習得する。	1 後	20			○			○			○
○			POP演習 II	1年次に習得した知識と技術を応用し、より 実践的な課題制作を行う。	2 前	20			○			○			○
○			表現技法 I	主としてアナログ的な表現手法を通じ、課 題制作を行う。	1 後	20			○			○			○
○			表現技法 II - A/B	表現技法 I を基本としクリエイティブな表 現力を養うための課題制作を行う。	2 前後	40			○			○			○
○			表現技法 III - A/B	2年間で培ったクリエイティブな表現力を 用いた課題制作を行う。	3 前後	90			○			○			○
○			CG演習 I - A/B	デザイン制作に不可欠なグラフィック用ア プリケーションの知識と技術の基本を学習 する。	1 前後	90			○			○		○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			CG演習Ⅱ-A/B	グラフィック用アプリケーションの基礎技術を活用し、課題制作を通じて実践していく。	2前後	90		○			○		○		
○			CG演習Ⅲ-A/B	グラフィック用アプリケーションの基礎技術を活用し、課題制作を通じて実践していく。	3前後	##		○			○		○		
○			CG応用演習(映像表現)Ⅰ	映像表現に必要な基本技術の習得と課題制作、コンテスト出品など。	1後	20		○			○			○	
○			CG応用演習(映像表現)Ⅱ-A/B	基本技術を活用しより完成度の高い作品制作を目指す。課題制作、コンテスト出品など。	2前後	40		○			○			○	
○			CG応用演習Ⅲ(映像表現)	基本技術を活用しより完成度の高い作品制作を目指す。課題制作、コンテスト出品など。	3前後	90		○			○			○	
○			CG応用演習(デジタル描画)Ⅰ-A/B	フォトショップなどグラフィックソフト、ペンタブレットなどのデジタル機材を用いた描画技法基本テクニック習得。	2前後	40		○			○			○	
○			CG応用演習(デジタル描画)Ⅱ-A/B	フォトショップなどグラフィックソフト、ペンタブレットなどのデジタル機材を用いた描画技法基本テクニック習得。	3前後	90		○			○			○	
○			デザイン応用演習(イラスト)Ⅰ	イラスト表現のための基本テクニック習得。課題制作。	1後	20		○			○			○	
○			デザイン応用演習(イラスト)Ⅱ-A/B	イラスト表現のための課題制作。応用表現の課題制作。コンテスト応募	2前後	40		○			○			○	
○			デザイン応用演習(イラスト)Ⅲ-A/B	イラスト表現のための課題制作。応用表現の課題制作。コンテスト応募	3前後	90		○			○			○	
○			DTP演習Ⅰ-A/B	DTPに必要なアプリケーションの知識と技術の基本を学習する。	1前後	90		○			○			○	
○			DTP演習Ⅱ	1年次の技術と知識を活用しDTPに関わる課題制作を行う。	2前	45		○			○			○	
○			デザインワーク演習Ⅰ	デザイン制作の現場に即した、実践的な知識、技術を学び、課題制作を行う。	1後	20		○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザインワーク演習Ⅱ-A/B	1年次の技術と知識を応用し、より実践的な課題制作を行う。	2前後	40			○		○			○	
○			デザインワーク応用演習	デザイン制作の現場に即した、実践的な知識、技術を活用し課題制作を行う。	3前	20			○		○				○
○			Web基礎演習A/B	Webの基本言語である、HTML、CSSの習得	1前後	90			○		○				○
○			Web応用演習A/B	CMSの基本技術習得からポートフォリオサイト制作。およびWebクリエイター能力認定試験受験のための対策講座	2前・後	90			○		○				○
○			デザイン応用演習Ⅱ-選択A	DTP分野・Web分野のいずれかを選択し、より実践的な技術を応用し、課題制作を行う。	2前	20			○		○			○	○
○			デザイン応用演習Ⅱ-選択B	DTP分野・Web分野のいずれかを選択し、より実践的な技術を応用し、課題制作を行う。	2後	20			○		○			○	○
○			デザイン応用演習Ⅲ-選択A	DTP分野・Web分野のいずれかを選択し、より実践的な技術を応用し、課題制作を行う。	3前	20			○		○			○	○
○			デザイン応用演習Ⅲ-選択B	DTP分野・Web分野のいずれかを選択し、より実践的な技術を応用し、課題制作を行う。	3後	20			○		○			○	○
○			Office演習A	WindowsOSの機能についての学習とWordやExcelといったアプリケーションの操作実習をおこなう。	1前	20			○		○			○	
○			Office演習B	MOS検定試験対策、Word、Excelを使った課題制作実習をおこなう。	1後	20			○		○			○	
○			作品プレゼンテーション演習Ⅰ-A	作品コンテスト応募作品を通じて作品プレゼンテーション技術を習得する。	1前	16			○		○			○	○
○			作品プレゼンテーション演習Ⅰ-B	進級制作を通じて作品プレゼンテーション技術を習得する。	1後	16			○		○			○	○
○			作品プレゼンテーション演習Ⅱ-A	作品コンテスト応募作品を通じて作品プレゼンテーション技術を習得する。	2前	16			○		○			○	○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			作品プレゼンテーション演習Ⅱ-B	進級制作を通じて作品プレゼンテーション技術を習得する。	2後	16			○		○		○	○	
○			作品プレゼンテーション演習Ⅲ-A	作品コンテスト応募作品を通じて作品プレゼンテーション技術を習得する。	3前	16			○		○		○	○	
○			作品プレゼンテーション演習Ⅲ-B	卒業制作を通じて作品プレゼンテーション技術を習得する。	3後	16			○		○		○	○	
○			デザイン制作演習Ⅰ	作品コンテストへの応募を中心とした作品制作実習（1年次）	1前	40			○		○		○	○	
○			デザイン制作演習Ⅱ	作品コンテストへの応募を中心とした作品制作実習（2年次）	2前	40			○		○		○	○	
○			デザイン制作演習Ⅲ	作品コンテストへの応募を中心とした作品制作実習（3年次）	3前	45			○		○		○	○	
○			進級制作Ⅰ	1年間で習得した知識、技術を応用し、進級作品制作。	1後	76			○		○		○	○	○
○			進級制作Ⅱ	2年間で習得した知識、技術を応用し、進級作品制作。	2後	76			○		○		○	○	○
○			卒業制作A	3年間で習得した知識、技術を応用し、進級作品制作。企画書作成、調査、制作。	3後	30			○		○		○	○	○
○			卒業制作B	3年間で習得した知識、技術を応用し、進級作品制作。中間プレゼン、制作、プレゼン。	3後	76			○		○		○	○	○
○			文章表現Ⅰ	就職活動で必要とされる国語力、作文制作力を養う。	1後	20			○		○			○	
○			文章表現Ⅱ	国語力、作文制作力に加えてビジネス文書作成術などについて学習する。	2前	20			○		○			○	
○			GCBⅠ	感謝心と思いやりの教育	1前	16			○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			GCB II	志の教育	2後	16		○			○		○		
○			就職実務 I-A	就職ガイドブックを中心に使用し、就職活動へ向けての導入、指導。また自己分析により就職へのビジョンを導き出す。	2後	23		○			○		○		
○			就職実務 I-B	より具体的に就職活動に必要な心得、活動の進め方の指導。求職面接、就職行事などへ参加する。また履歴書の書き方や面接の練習を行う。	2後	23		○			○		○		
○			就職実務 II-A	就職試験対策として、学生への個別就職ガイダンス、面接練習を行う。	3前	30		○			○		○		
○			就職実務 II-B	就職試験対策として、学生への個別就職ガイダンス、面接練習を行う。	3後	30		○			○		○		
○			教養講座 I	就職試験対策してSPI対策、基礎教養講座を行う。	2後	20		○			○			○	
○			教養講座 II	就職試験対策してSPI対策、基礎教養講座の継続、応用。	3前	20		○			○			○	
○			マナー講座	社会人になるにあたってのマナーの基本を確認する。	3後	20		○			○			○	
合計			59 科目		2487単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
ア. 各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 イ. 卒業基準検定を取得していること。 ウ. 学年の出席率が90%以上であること。 エ. 学生としてふさわしい生活態度であること。 上記を満たさない者は、他の検定資格、学習態度、出席状況などを参考に卒業判定会議により判定する。 ※留年した者は、その学年の全科目を再履修しなければならない。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週